東京ジャーミイ金曜日のホタバ

２０１１年12月16

クルアーンとスンナの統一性

親愛なるムスリの様

親愛なるムスリムの皆様。崇高なるアッラーが啓典で命じられ、しもべたちの実践を求められている崇拝行為は、預言者たちの生涯で象徴化され、素晴らしい模範として示されました。預言者たちはアッラーがしもべたちの中から選ばれた理想的な人々です。アッラーが愛されるしもべになるにはどうすればいいだろうかと考える人々は、アッラーのご満悦を得ていた預言者たちを模範とすることでこの願いをかなえることができるでしょう。

クルアーンでは、「本当にアッラーの使徒は、アッラーと終末の日を熱望する者、アッラーを多く唱念する者にとって、立派な模範であった。」（部族連合章第２１節）と語られています。

イスラームの教えには二つの主たる源があり、それはクルアーンとスンナです。クルアーンで命じられたことが崇拝行為となるには、預言者たちがクルアーンを理解し、解釈し、実践することによって実現したのです。アッラーは次のように仰せられました。「われがあなたにこの訓戒を下したのは、且つて人びとに対し下されたものを、あなたに解明させるためである。」（蜜蜂章第４４節）また別の章では「あなたがたは何事に就いても異論があれば、アッラーと終末の日を信じるのなら、これをアッラーと使徒に委ねなさい。それは最も良い、最も妥当な決定である。」（婦人章第５９節）と仰せられています。

クルアーンの言葉で、解決法を求める際にはクルアーンやスンナに委ねることを命じることにより、クルアーンを理解し実践するという点において最大の導き者が預言者ムハンマドであることが指摘されています。

預言者について、不可欠といえる事柄が一つあります。預言者ムハンマドがいなければ、クルアーンの言葉が下された意味、そしてそれがどのような意義を含むものであるかを理解すること、人生においてこの上なく重要である崇拝行為をどのように行うかを知ることは不可能なのです。崇高なるアッラーは預言者ムハンマドの教えにおけるこの重要性をクルアーンで自ら示しておられます。つまり預言者ムハンマドを愛すること、信じること、従うこと、彼がもたらされたものを受け入れること、禁じられたものを避けることはすべてアッラーのご命令なのです。クルアーンでは「また使徒があなたがたに与える物はこれを受け、あなたがたに禁じる物は、避けなさい。」（集合章第７節）と命じられています。

他の章では、「また（自分の）望むことを言っているのでもない。それはかれに啓示された、御告げに外ならない。」（星章第３－４節）とされ、預言者の言葉や振る舞いが私たちにとってどれほど重要であるかが指摘されています。

預言者ムハンマドの教えにおける位置を理解しないこと、重要視しないことは、崇高なるアッラーやクルアーンに従わないことを意味します。なぜなら預言者ムハンマドはその権限をクルアーンから与えられているからです。これらすべてに加え、教えは誠実さと忠誠を求めるものです。それは心臓をはじめとしてすべての器官が安らぎを見出す場です。この安らぎと精神的な雰囲気を確保し維持することは、ただアッラー とその使徒を信じること、そして愛することによって可能となるのです。私たちの信仰や忠誠さを破壊するあらゆる疑念から遠ざかることが必要です。簡単にいうならば、私たちの教えを、預言者ムハンマドが私たちへの信託として残された真の源、すなわちクルアーンとスンナから学ぶことが必要なのです。なぜなら十分な知識を得ることができなければ、真実ではない、スンナに一致しない言葉が私たちの信仰に傷をつけるかもしれないからです。私たちの崇拝行為や誠実さ、忠実さに影を落とすかもしれないのです。今日の不図場をクルアーンの言葉で締めくくります。「われは、全人類への吉報の伝達者また警告者として、あなたを遣わした。だが人びとの多くは、それが分らない。」（サバア章第２８節）